

西洋は相手にされなくなった：世界は笑っている（下）

Andre Vltchek

March 24, 2017

私は北朝鮮について、それが“地球上で最も憎まれている国”のリストに、どのようにして加わったかについて何度も書いてきた。北朝鮮は、何年間かは、南よりもはるかに豊かで民主的だったことはよく知られている。しかし彼らは、一つの膨大な人道的“プロジェクト”に乗り出し、キューバやソ連と共に、またある程度、中国とも一緒になって、多大の出費と犠牲のもとに、ほとんどアフリカ全大陸を解放した。それだけではなかった。彼らは、そのトップの教育者や医者、地球上のほとんどの荒廃した土地の隅々にまで送った。そのパイロットはまた、1969年の戦争の間は、エジプトのMIG機をイスラエル攻撃のために飛ばした。これらの事実は、西洋のプロパガンダによって沈黙させられてきた。しかしその事実は北朝鮮が、なぜ、村八分にされ、片隅に追いやられ、無意味な出入港禁止を食らい、彼らが少なくとも過去20年間やってきたようなやり方で、反応せざるを得なかったか、その理由をはっきり説明している。

北朝鮮もまた、決して降伏したことがなく、今後もしないであろう。

ベネズエラも同じである。彼らは何年も、ボリビア革命のみならず、ラテン国際主義や連帯の偉大な番人であり動力であった。クーデタ、出入港禁止、陰謀とプロパガンダ・キャンペーン、外国の支援する“反政府軍”の生活資源攻撃やテロに至るまで、ベネズエラは、あらゆる痛めつけを受けながら、それでも生きている。ほんの数日前、私は、カラカスから最近帰ってきた、“5つ星運動”議員団からなる、イタリア議会の代表団に話をした。彼らの結論は単純だった——「最悪の事態は過ぎた」。

世界はそれを知っている！ ベネズエラ、北朝鮮、キューバ——彼らは決して倒れなかった。何本のナイフが体を突き刺しても、制裁や、クーデタの試み、西洋とその怪物じみた帝国によるテロの直接行動にもかかわらず——。

事態は明瞭な、疑いないものになりつつある：——西洋は、決意、真の勇氣、愛国的な愛の前には、なすすべもない。彼らは人道主義イデオロギー、真の忠誠に直面しては無力である。

そして世界は、ずっと見続けながら結論を出している。

私はシリアのことを書くとき、アレッポを 20 世紀のスターリングラードに例えた。ここは人種差別、テロリズム、それに最低の形の西洋帝国主義（と、恥ずべき地方的従僕行動）が、決定的に終わった場所である。その代価は恐ろしいものだが、世界に対するメッセージは明らかだ：——心から祖国を愛する者は、あらゆる不利に抗して戦って勝ることができる。特に、もし彼らの側に、真に偉大で頼れる友人や同志がいたら！

いつか世界は、シリアの人々に正当な、あふれる感謝を送るだろう。いつかすべては理解されるだろう。いつか、おそらく遠からず。

*

今は人類歴史の中で、最も偉大な時の一つある——おそらく最も偉大な。

それは記念碑的な革命を告げる祝砲もなしにやってきた。

すべては急速に、組織化された決然としたやり方で起こりつつある。

ロシアや中国、ラテンアメリカや他の、世界中の国の知性ある人々は、何が本当に、この我々の世界、我々の文明を、この笑うべき崩壊へと突き落としたのか、昼も夜も熱心に、解決しようとしている。

単純化して真正直な答えをすればこうなる：——西洋の帝国主義（軍事的、経済的、知的/文化的）、植民地主義、ネオ植民地主義、それに、そのすべてを合わせたものの恐ろしい副産物、気ままで野蛮な資本主義の形態。

それと同時に、新しい形の政治、経済、それに社会制度が再び計画されつつある。

何億という人々を殺し、何十億という人々の人生を損なった、西洋の野蛮なテロリズムの前に、膝を折ることを拒絶しつつある国々の軍事戦略家たちは、彼らの国家と世界をどう防衛するかを計画しつつある。

今再び、世界は働いている！ それは塹壕を掘り、人々を教育し、我々の惑星を何世紀ものあいだ苦しめてきた文化の、最終決着の場に備えつつある。

それは、偉大な希望と、新たに生じた熱狂の一ときである。

もちろん西洋の資本から見れば、すべては暗澹として意気消沈している。“希望”というものは全くない。

完全にその通りである——「彼ら」に希望は全くない。

ヨーロッパ人と北米人が習慣的に世界を分析してきた、その論理、その“哲学”は、死の終点（dead end、行き止まり）にたどり着いた。

確かにそれは“哲学の終わり”、あるいは言われるように“歴史の終わり”である。もう一度念を押すと、それは「彼らの」哲学、「彼らの」歴史の終わりである。

それこそ、「彼らの」選挙について、また「彼らの」政治家たちの話を聞くことが、時間の浪費でしかない理由である。今、世界はそれをますます理解するようになった。

彼らの“新しい策略”は実はとても古いものだ。彼らの組織そのものが時代遅れである。それは少なくとも百年前に、引退していきかたのべきものである。それが生き残ったのは、その野蛮性と残虐性のためにすぎない。どちらにしても、それはやがて滅びる。

最近、西洋に住んでいる人々に出会うのは、第2次大戦中にナチス・ドイツに住んでいたゾンビーに出会うようである。戦争が終わってから、彼らは、少なくとも彼らの多くは、何年も夢遊病者のように、同じ言葉を繰り返していた——「私たちは知らなかったのだ、決して理解できなかったのだ！」と。ナチスのプロパガンダと、西洋と植民地で使われてきたこのプロパガンダは、(ノアム・チョムスキーとの共著『西洋のテロリズム』で定義したように) 全く同じ根源、基盤および方法に根差している。それらは共に、問題が人民の全面的洗脳ということになれば、きわめて有効だ。

西洋の帝国主義者やタービン式資本主義の泥沼の、最終章を調べてみることは、混乱するだけであり無益である。

ヨーロッパもアメリカも、一連の荒廃をもたらす精神病にかかっている——第2次大戦後に、スイスの偉大な心理学者カール・グスタフ・ユングが定義したような意味で。

病理学的な振舞いにもあまりにも深く関わり、絶えずそれを研究し分析するということは、どんな健康な人間の精神をも損ない、深く鬱屈させるだけである。

これ以上理解すべき何もない。世界のあらゆる場所の、何億という犠牲者が自ら語っている。

ここで唯一の合理的な問題は——どうやって、この戦慄すべき事態を即刻やめさせるかということ、どうやって人類を、その自然の発達と進化のパターンに引き戻すか、ということである。

私は、「罰」とか「裁き」とか、その他の脅しや、恐怖を拡散させる方法を、よいとは思わない。私は、西洋が世界に対してなしてきたすべてを“償う”かどうかに興味はない。私はただ、これっきり、やめてほしいだけである。

私はそれをやめてもらうために、一生懸命働いている。

他の人たちも同様だ。

そして世界は見つめている。そして突然、光景が変わったことを喜んでいる。

突然、ますます多くの人々が、大胆に、世界のこの政権を見て嘲笑し始めた。もちろん、パリやロンドンやニューヨークでは、そうではない。（ここでは彼らは、これまで以上に怯え柔順になっている。）しかしそれ以外の所では、それが起こっている。すべての大陸の人々が、他の人たちはどうしているか、我々はどうなのか、を知りたがっているが、「帝国」やその精神状態が何を生み出しているかに興味はない。

彼らは笑いながら、新しい日、新しい年がもたらすものを、辛抱しきれず待っている。彼らは、真の新しい始まりがやってくるのを待っている。